

大阪、兵庫、岡山、熊本の小学生のみなさんが 玉浦を訪問し、津波災害と復興まちづくりの学習をしました

2015年1月25日(日)、南横山小学校(大阪府)・妙法寺小学校(兵庫県)・西粟倉小学校(岡山県)・一勝地小学校(熊本県)のみなさんが、岩沼市を訪れ、仮設住宅や沿岸部、集団移転地を見学しました。

このプログラムは、ニッセイ緑の財団の主催で行われました。前日に仙台で行われたシンポジウムに参加した小学校のうち、4つの小学校のみなさんが見学に参加しました。環境デザイン研究室では、小学生の事前学習の資料として、集落についての冊子を作成しました。

当日は、玉浦西まちづくり住民協議会の中川勝義さん、小林喜美雄さん、菊地幸一さん、齋健二さんと、岩沼市役所の菅井課長が、案内をしてくださいました。

まず、仮設住宅で齋さんのお宅を見学させていただきました。次に、バスで沿岸部に向かい、長谷釜地区では神明神社や被災された菊地さんのご自宅跡、相野釜地区では千年希望の丘と慰霊碑を訪れ、最後に集団移転先である玉浦西地区を見学しました。それぞれの場所やバスの中で、中川さんたちから、震災当時の体験などの貴重なお話をうかがいました。昼食後にも、小学生のみなさんから、「津波のあとの海の様子はどうでしたか」「移転先は安全なのですか」といった質問があり、体験談や、「日ごろから避難訓練に真剣に取り組み、災害に備えてほしい」といったお話をうかがいました。

小学生のみなさんも熱心にメモを取ったり、お話を聞き入り、密度の濃い時間となりました。



神明神社では菊地さんにお話をうかがいました



小学生の質問に答える小林さん



慰霊碑での献花の様子



長谷釜神明神社での集合写真